



す。そこに40代、50代で勤めることになったときに、こういった接し方をするとよいかというお話もしています」(同センター 保育人材コーディネーター 岩淵雅子さん)。

**働く側と園の求めているところに違いも**

セミナーや相談会に出て、必ずしも全員が就職するというわけではありません。「仕事をするか、しないかの段階で迷っているという人も多いですね」(岩淵さん)。

セミナーなどの受講者からは「園の雰囲気やお給料のいいところで働きたい」「早番、遅番などのシフトがない勤務がいい」「事務仕

事が免除される常勤ならやりたい」などの声も聞かれます。

「保育園の求人とは正規職員が多いのに対し、セミナー受講者は『扶養の範囲で働きたい』という人も多いです。働く側と、園の求めているところが違う面があります」(岩淵さん)。

同センターに就職希望として登録している人は毎月平均100〜150人程度(有効求職者数)。保育人材コーディネーターの丁寧なマッチングで60代でも就職に結びつくケースもあるといいます。「潜在保育士の掘り起こし」とともに、求人事業所との希望のギャップを埋めていくことが求められています。



保育士就職支援セミナーの授業風景。人形を使って、子どもの着替えの練習。



保育士就職相談会の会場風景。毎回、30〜40法人がブースを出します。

## 東京都保育人材・保育所支援センターの相談会やセミナーに興味津々 潜在保育士の掘り起こしはどんなふうになっ?

セミナー参加者の多くは  
30代〜50代

各都道府県等では、保育人材の確保に向けた事業が実施されていますが、たとえば東京都では、東京都社会福祉協議会への委託事業として「東京都保育人材・保育所支援センター」(東京都福祉人材センター内)が設置されており、平成21年9月という早い時期から保育人材確保事業に取り組んできています。「潜在保育士の掘り起こしとマッチングなど」を主な目的として、「保育士就職支援セミナー」を年に10回、「保育士就職支援研修」

相談会」を年に6回開催しています。

セミナーは、2〜3日の連続講座で、希望者は保育所等の現場実習にも参加できます。また、研修・相談会は就職支援研修と求人事業所との就職相談会を一体的に開催する事業です。

参加者の多くは30代〜50代。結婚、出産、育児のために退職したという人も多く、待遇や勤務時間が合わなかったという例もあります。中には10年以上のブランクがある人もいて、現場実習ができるセミナーは、特に好評です。

「ブランクがあるため、「現場に戻る自信がない」と言う方が多いです。でも、「自信がなくても、就職先に選んだその園の保育を学びながら仕事していけばいいんですよ」とおすすめています。

一方で、おむつ替えの方法や、保護者対応も、20〜30年前とはずいぶん変わってきています。「昔はこうだった」ではなく、最新の保育を学ぶことが大切ですよ、ということもセミナーの中でお伝えしています。

あとは、保育園によっては、20代の若い世代がリーダーとして働いている場合があります。